学校設定科目「アウトドアⅠ・Ⅱ」を軸とした教育活動の実践

北海道南富良野高等学校　学級数３　（校長　能登　啓児）

１　学校設定科目「アウトドアⅠ・Ⅱ」が目指すもの

本校は、南富良野町の豊かな自然環境を生かした教育課程の編成による「魅力ある学校づくり」を目指し、学校設定科目として、令和３年度から１学年で「アウトドアⅠ」を、令和４年度から２学年で「アウトドアⅡ」を開設している。科目の開設に当たっては、「アウトドアⅠ・Ⅱ」を教育課程の軸として位置付け、地域の教育資源や外部人材の活用による特色ある教育活動を展開するとともに、社会に開かれた教育課程の実現を図っている。

２　「アウトドアⅠ・Ⅱ」の内容

「アウトドアⅠ・Ⅱ」では、地域を理解する学習や様々な体験活動を通して、地域の自然や観光資源の魅力に気付き、地域の魅力の発信方法や課題の解決について探究することとしている。夏はラフティングや軽登山、キャンプ、冬はスキーやカーリングなど、地域を「学びの舞台」とした豊富な自然体験型の協働学習を実施するとともに、それぞれの体験活動の後には振り返りやグループ発表、地域の方を招いたアウトドア発表会を開催するなど、探究のサイクルを意識し、学びの深化を図っている。

【1学年　アウトドア発表会の様子】

３　「アウトドアⅠ・Ⅱ」を軸とした教育課程の概要

⑴ 単元配列表の作成

「アウトドアⅠ・Ⅱ」を軸とした単元配列表を作成し、校舎内の各階に掲示することで学習内容を可視化し、教員と生徒が学習内容を共有するとともに、生徒が学習の見通しをもち学習意欲を高める工夫をしている。

⑵ 教科等横断的な学習活動の展開

教科等横断的な視点に立ち、次のような「アウトドアⅠ・Ⅱ」とそれ以外の教科・科目との相互の関連を図った授業展開により、相乗効果を高め、生徒の「知識・技能」の修得と「思考力・判断力・表現力等」の育成を図っている。

ア　１学年の「情報処理」の単元「プレゼンテーション」において、生徒は情報の収集方法やプレゼンテーションソフトの使用方法を学習した上で、「アウトドアⅠ」の「アウトドア発表会」において、南富良野町の資源や観光施設について調査し、プレゼンテーションソフトにまとめた内容を発表している。

イ　２学年の「アウトドアⅡ」の「河川の生態調査」では、生徒は南富良野町の河川で生物相を調査し、人工構造物が生物に与える影響や、自然と人との持続的な共生の在り方について学習しており、その内容を踏まえ、２学年の「生物基礎」の単元「生態系と保全」において、南富良野町の自然を事例として、人間の活動が生態系に与える影響や生態系を保全する試みなどについてより深く学習している。

⑶ 地域との連携･協働

南富良野町のアウトドア関連会社や教育委員会、観光協会などと連携し、活動内容に応じて様々な専門家や関係者による講義や指導を受けている。また、南富良野町の小中学校と連携し、カヌーやカーリング、環境学習の学習内容の系統表を作成することで、学習内容の発展性や系統性に留意している。

４　成果と課題（成果○　課題●）

○　「アウトドアⅠ・Ⅱ」を軸とした単元配列表の作成や、地域の関係機関との連携体制を整備することで、「アウトドアⅠ・Ⅱ」の教育課程上の位置付けが明確となり、生徒の学びの広がりと深化につながっている。

○　学校アンケートの結果から、「アウトドアⅠ・Ⅱ」の取組が地域や保護者に浸透していることが分かり、学校の魅力の発信に寄与している。また、南富良野町外や上川管外からの学校見学や問合せが増えていることから、本校の「アウトドアⅠ・Ⅱ」を軸とした教育活動の認知度が高まっている。

【2学年　河川の生態調査の様子】

●　教科等横断的な学習について、「アウトドアⅠ・Ⅱ」と各教科・科目の特性による相性があることから、これまでの実践を踏まえ、効果的な教科・科目間の連携方法や学習内容を検証する必要がある。

●　３学年には「アウトドア」の学校設定科目を開設していないことから、「総合的な探究の時間」などを活用して、２学年までの学習内容を３学年の探究活動に継続させる工夫が必要である。